



## 行政のブルー・オーシャンで舵取りを

総務省統計局統計調査部  
調査企画課課長補佐

**最上 桂** MOGAMI Kei

平成 22年 4月 総務省採用  
同 統計局統計調査部経済基本構造統計課  
平成 24年 1月 内閣官房行政改革実行本部事務局  
平成 25年 1月 同 行政改革推進本部事務局  
平成 26年 7月 総務省政策統括官(統計基準担当)付  
統計審査官(経済統計担当)付主査  
平成 28年 4月 同 統計局統計調査部調査企画課係長  
平成 29年 7月 同 統計局統計調査部経済統計課課長補佐  
併任 統計局統計作成支援課課長補佐  
令和 2年 7月 現職

現在進行形で猛威を振るう新型コロナウイルス――否応なくこのウイルスが生活の中心となり、私たちの社会は一変しました。

### 「データ」が「意識」を変える

そのような中、私が公務員人生の大半を捧げている「統計行政」…ここでも、一つの変化、前向きな変化を感じています。統計を含めた「データ」の価値が行政の内部はもちろん、国民の中にも浸透していったことです。

Evidence-Based Policy Making(根拠に基づいた政策形成)が謳われて久しい昨今、速報として日々報道される感染者数など、同じ「データ」を国民と共有しながら、緊急事態宣言といった生活に直結する政策を打ち出し、それが目に見える形で評価されていく…日々の感染者数でなく、7日間の移動平均や病床の逼迫度などがより良い評価指標として用いられるようになり、「データ」の見方・リテラシーもどんどん醸成されていく。さらには、行政側だけでなく、国民も「データ」に基づいて行動するようになった――「データ」は「意識」を変え、そして「行動」をも変えたのです。

### 「統計行政」の「意識」を変える

しかしながら、「データ」、特に正確性を求められる「公的統計」の信頼が今、揺らいでいます。

2018年に発覚した厚生労働省の毎月勤労統計問題、そしてまた国土交通省で建設工事統計に係る問題が発覚しました。統計が歪めば、根拠が歪み、ひいては政策が歪む――せっかく醸成された国民の「意識」であっても、「信頼」のない「データ」では「行動」にはつながらないでしょう。

「公的統計」は継続性を重視するあまり、「変化」をおそれがちです。ただ我々職員は「意識」を変える必要があります。漫然とではなく、データメーカーとしての矜持を「意識」し、今一度「信頼」を勝ち取らなければなりません。そのためにも、統計行政の大元締めとして、そのグランドデザインを描く立場にある総務省が果たすべき役割は非常に大きいです。

### 大きな可能性がある場所で航海を

「変化」がない世界…これは正直つまらない。ところが「統計行政」はようやく価値が見いだされ、さらには変わらなきゃならないという機運もある。ここは行政のブルー・オーシャンです。

変化には苦痛も伴うでしょう、ただ間違いなく新しい世界を見ることが出来る。一緒にこの海で舵取りをしてみませんか？



子どもたちの前にも青い海♪

### その先にいる国民のために

私は現在、行政不服審査法など行政の共通的な制度の担当をしています。行政不服審査法の担当と言っても、国民からの不服申立てに直接対応するわけではありません。各府省や地方公共団体などが不服申立てに適切に対応できるよう、バックアップする立場です。また、行政制度一般に関する調査研究の企画立案にも携わっています。どうすれば国民のためになり、かつ行政も仕事をしやすくなるかを、常に考えながら仕事をしています。

### 常に新しい視野を

入省してからは、独立行政法人等の制度や、省内の法令に係る連絡調整・審査に携わったり、個人情報保護委員会に出向したりといった経験を経て、産休・育休に入りました。幸い、霞が関の保育所に子どもを入れることができたため、育休からの復帰後は、仕事の前後に子どもを送迎する生活をしています。子どもが生まれてからというもの、自らの仕事に割ける体力や時間の限界が常に意識されるようになり、「限られた資源の中で行政が最大限政策効果

を発揮できるようにするには」といった入省当時の関心は切迫した形となって、より自分ごとと考えられるようになりました。

### 鳥の目、虫の目、魚の目

今後、時代の変化によって、私のように育児に一定のリソースを割かなくてはならない、制限のある職員が、霞が関も含めた行政全体が増えてくることが予想されます。その際、行政活動をよりよい形で維持するための方策として考えられるのは、例えば私の現職に関連するものであれば、所管する広く行政に関わる制度の運用改善などが挙げられるでしょう。その他、行政の業務効率化や、EBPMなども考えられます。

総務省の業務は、一見抽象的でわかりづらく感じるかもしれませんが、このように、一行政官が業務の中で感じることで地続きになっています。マクロな視点、ミクロな視点、時代の変化を踏まえた視点、様々な視点を変えながら「あるべき行政」を見据える、そんな仕事をしてみませんか。



子どものお宮参りにて



子どもとの家でのオフショット

## 「あるべき行政」を見据えて

総務省行政管理局調査法制課  
法制管理室係長

**藤本 奈那** FUJIMOTO Nana

平成 29年 4月 総務省採用  
同 行政管理局管理官付(独立行政法人制度総括・特殊法人総括)  
併任 行政管理局行政情報システム企画課  
平成 30年 7月 同 大臣官房総務課  
令和 元年 7月 個人情報保護委員会事務局総務課  
令和 2年 8月 総務省行政管理局主査  
令和 3年 9月 現職

